

# 小学校 3年 図画工作科

感じる  
想像する  
考える

話す・聞く  
書く

育成したい  
国語力

話題にする内容と他の事柄との相違点や共通点を明確にしながらかたり、聞いたりする。思い描いたこと中心点が伝わるように話し、自らの心情や考えを伝える。目的に応じ、理由を明らかにしながら自分の考えたことを書く。

## 題材名 「ねん土でつくろう」

### 題材の流れ

第1・2時(本時) A表現(1)造形遊び

【ねん土の手触りを確かめながらつくりたいものをつくろう】

- 粘土と様々な方法でかかわりを深める。(丸める、伸ばす、けずる、くっつけるなど)
- 粘土の表情や感触から想像をふくらませてつくりたいものをつくる。

鑑賞

関連 A表現(2)立体に表す

- 【 する人をつくろう】
- 粘土の特性を生かしてつくる。(動物を作ってもよい。)

### 国語力育成の視点

粘土を触りながらその感触を楽しむことから始めます。粘土とのかかわりを通して微妙な変化を感じ取り、それを言葉で整理することにより、「感じる力」や「想像する力」をはぐくみ、新たな発想を呼び起こします。

活動の中で自分の感じたことや想像したこと、考えたことを言葉にし、友達と交流し、相違点や共通点を確かめ合うことを大切にします。

また、活動を振り返り言葉にしてまとめることで、「考える力」を高めます。

### 本時の目標

- 粘土を触りながら、その感触を楽しみ、できる凹凸の感じや量感などに関心をもち、次々と造形活動を楽しもうとする。 【造形への関心・意欲・態度】
- 粘土の表情(凹凸の感じや量感など)や感触から、作りたいものを発想したり連想したりして、想像をふくらませる。 【発想や構想の能力】

### 本時の流れ

#### 導入

本時のめあての確認(一斉)

「ねん土の手ざわりを確かめながら、つくりたいものをつくろう！」

粘土の扱い方やへらなどの道具の使い方を知る

- 手のひらで扱う。指先で扱う。
- 様々な種類の道具(へらやひもなど)を使う。
- 粘土をひも状や団子状、板状などにしてくっつけたり重ねたりする。

#### 展開

表現活動(個人・グループ)

- 自分の手や指先を使っていろいろなものをつくってみる。
- 手のひらや指、爪などを工夫して使い、粘土の感触やできる表情について気付いたことを交流する。
- 道具を使っていろいろなものをつくってみる。
- 手や指を使った場合と道具を使った場合の違いや、できる粘土の表情について気付いたことを交流する。
- くっつけたり重ねたり、ひねり出したり盛り上げたり、粘土を組み合わせさせてつくってみる。
- 形や表情から連想したり発想を広げたりしたことを交流する。
- 自分なりの工夫をして、思い付くものをつくってみる。
- 発想を広げ、友達がつくったものをつないだり、関連させたりして活動を大きくする。

#### まとめ

振り返り(個人)

活動を振り返って、感じたことや考えたことをまとめる。

#### 視点 ①

感じる力

手のひらや指先で感じたことや粘土の表情の変化、道具を使ってできる形の面白さなど、気付いたことを言葉にして友達と交流し確かめ合います。

#### 視点 ②

想像する力

できた形や粘土の表情から、想像をふくらませ、作りたいものを作ります。友達と情報を交流し発想を確かめ合うことで「想像する力」を高めます。

#### 視点 ③

感じる力・考える力

ワークシートを使って振り返りながら言葉にしてまとめることで、「考える力」や「感じる力」を高めます。

### ワークシート

なまえ

手や指で感じ取ったこと

道具を使って気付いたこと

友達と話して「すごいな」と感じたこと

「つくってみよう」と思ったものとそのわけ

感じたこと・考えたこと